

教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋大学大学院医学系研究科（総合医学専攻）						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療コース（大学院正規課程）						
対象職種・分野	医師、歯科医師、薬剤師						
修業年限（期間）	総合医学専攻博士課程 4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院課程で放射線治療、核医学治療、神経ブロック、病理診断等を学び、学位取得後は地域に定着して多職種連携による集学的な治療・ケアなど、QOL向上や終末期医療を担う放射線治療医、麻酔科医、病理診断医。 ・大学院で臨床腫瘍学を系統的に学び、学位取得後は腫瘍循環器学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学等の学際領域にも対応できる医師、薬剤師。 						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・主専攻科目 16単位（選択必修科目） セミナー10単位及び実験研究6単位 特徴あるプログラム[*]を4コース以上にわたり合計20回以上受講必修 [*]一定のテーマにそった連続講義で構成される学内教育プログラム ・副専攻科目または広領域専攻科目から10単位以上（選択必修科目） ・基礎科目 4単位（必修科目） 基盤医学特論 2単位 特論を15回以上受講 基盤医科学実習 2単位 ペーシットレーニング[*]を最低4コース履修（1コース 0.5単位） ・いずれも担当教員と実地修練の担当者による論文指導を受けた上で、教授会が行う論文審査に合格する。 						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> ・主専攻科目（選択必修）：放射線治療学、量子介入治療学、麻酔・蘇生医学、臓器病態診断学、化学療法学、医療薬学等のがん治療を学び研究する科目より選択 ・特徴あるプログラム「次世代がん医療」15講義のうち10回以上を必須 ・基盤医科学実習「ペーシットレーニング」「次世代がん医療」実習 2コース履修を必須 						
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門医（放射線腫瘍学会・医学放射線学会）、認定病理専門医（病理学会）、ペインクリニック専門医（ペインクリニック学会）、がん薬物療法専門医（臨床腫瘍学会）の研修施設、がん専門薬剤師（医療薬学会）、緩和医療専門薬剤師（緩和医療薬学会）、がん薬物療法認定薬剤師（病院薬剤師会）の教育機関として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴あるプログラム「がんプロフェッショナル養成基盤推進プログラム」は第2がんプロで医学系研究科で開設し継続するプログラムであり、本コースではがん治療を系統的に学習できるよう大幅に再編成し、多職種チーム医療による集学的な治療・ケア、緩和医療・終末期医療、循環器腫瘍学、腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学など学際領域を発展的に取り入れ、「次世代がん医療」として拡充する。 ・基盤医科学実習「ペーシットレーニング」は基盤手法から最先端の研究手法まで幅広い研究手法を大学院生が習得できるプログラムであり、本コースではがん遺伝子パネル検査のエキスパートパネル（EP）参加、EP報告書作成、外来化学療法室実習、高齢者機能評価実習等を含む実習「次世代がん医療」を新たに設置する。 ・放射線治療医、神経ブロックを行う麻酔科医、病理診断医を学ぶ学生はがん治療学に強く関心を示すが従来は自習以外で系統的に学修することは困難であった。本コースによってがん治療学を学際領域を含めて系統的に学修できる。 ・講義をオンライン化してオンデマンド配信することで受講しやすい環境を整備する。 ・ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業「医療人類学とバーチャル教育を活用した屋根瓦式地域医療教育（濃尾+A）」で行う地域に貢献する医師養成の教育リソースを有機的に共有する。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の申請に加わる担当教員ならびに本事業で雇用する特任教員、学外招聘教員によるオンデマンド講義を行う。 ・本事業に特化した履修記録管理システム（電子ポートフォリオ）を用いて学習記録を蓄積し、他の学生や指導教員と地理的条件を超えてその学びを共有する。 						
修了者の進路・キャリアパス	地域に定着して多職種連携によるがん医療を実践する医療人材。修了後も症例検討会にリモート参加できるよう3省2ガイドラインに準拠した体制を整備する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		8	8	8	8	8	40
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去4年間に放射線治療、麻酔、病理診断の大学院に11名（毎年度2-4名）が入学した。学際領域に新たに毎年4名を見込み、目標に毎年度8名に設定。						